

【作文小学生低学年の部】

特選 登米小学校3年 櫻井陽太「せかいをつなぐ水」

入選 加賀野小学校3年 稲邊領汰「水道がこおった日」

入選 佐沼小学校3年 加美山凜々花「大切な水」

せかいをうながす水

登米^{ヒラキ}小学校 三年 櫻井 陽太

ある日、テレビを見ていたら、気になるの
Mがあり、母に聞きました。

「これは、なんのCMなの？」

「きれいな水が余た入らない国で、またない
水をのぶしもなくして、妹が死んでしまった
人だっって。」

それはとてもしつうげまできでした。ぼく

は、じや口をふねえば水は出ると思っていた

けど。さらにどう水々のおなご。。。。

くにも妹がいるので、そんなことは考えられ

ませんでした。気がなっって、調べてみるの大

へんは二とが分かりました。またない川が

入りやれてない井戸の水がゆんいんで今日も

八百人の人がなくなっっていること、ぼくと目

いくらいのとしの子供たちが、学校へ行けず

一日のほとんどもをさばくを通って水くみに行

っているということが分かりました。

「えっ。。。。!!」

思わず言葉がうしろになりました。

ぼくの当たり前前はせかいの当たり前ではありませんが、きれいな水を使うことも、きれいなお茶碗や食器が毎日使えることも、おふろやトイレに入ることも本当は世人がくちあつたことなんだと気づきました。学校かいがだなあと思う日もありますが、もしかくだらばいたくおなげみぐもくれないと少しはんせいしました。

今のぼくには、少なからおこづかいをためてほ金をたたくことくらいしかできません。でも、前のぼくのようはこの世のいいを知らぬ人に教えることはできません。教えてあげた人が、ぼくのようになっているか、お金のことを思っています。その人がまたつぎの人にまたつぎの人に。そうしていけばすくえ、のちがふえ、かんきょうはよくなると思います。

そして、今あるかんきょうにがんじがらめの持ちをわすれずにいようと努めます。いっせ

を云 坂長は水が^川出るのは、水道をかんりして
くれている人がいるからです。ありがと^とと
つたえたいです。川や海、山、空はずが^ア
な^カっています。自ぜんを大切に^キることも
未来の^アめになると思^ヒいます。オラオラした
水のように^アりながれを作^クていき^テいます。

水道がこおった日

加賀野小学校 三年 いなべりょうた

冬のとても寒い日、朝起きたらのお父

さんが、

トイレの水がながれない。

と言った。お母さんが、家の中の水道が出る

か、かくにんもに行った。

せんたくぎの水が出ないし、せんめん所の

水もでない。

と言って、とてもこま、た頭を^てしていた。

さむすぎで、ぼくの家の水道がこおってしまった。

これは、たいへんなことになってしまった。

と思った。いつもレバーをひけばながれ

ていた、トイレの水がながれない。大きなベ

ンゴトルに、おふろの水をいれて、トイレ

のタンクに水をためて、レバーをひくと水が

ながれた。ヤットゴトル三本分の水が一回で

ながれてしまう。こんなに水がもつよんだっ

たことにびっくりした。お母さんは、せんたく

くをしい、コインランドリーに行った。いつ

も、あたりまえにできていたことかできなくなっ
てしまった。

二人なに水にこまったのよ、東日本夫しん
さいけらりだなあ。
とお母さんとお母さんがハッていた。みんな
で、早く水がてるように、水道をブライヤー
であたためたり、ホッカイロをほったりした。
おゆをあかして、タオルをしぼって、じやぐ
ちをあたためた。ぼくは、早く水がでてきて
ほしくて、たぐんおって、だいをした。タオル

ごろ

、水が出はじめてよ。

とお母さんが言った。ぼくがいつてみると、
ゴゴゴゴと音をたてて、水がながれてい
た。みんなで、やったーとよろこんだ。一日
だけだったけど、水が出ない生活はとてま
へんだった。ぼくは、はじめ水に介入し
した。今までは気がつかなかったけど、水が
なくなり、なんにもできななくなったなあと
思った。これからは、大切に水を使おうと思
った。

大切な水

加美山 眞文花

人は水がないと生きていけない。水はとて大事なものだと思えます。

水で手を洗ったり、水女のふたり、茶碗の水を洗ったり、お風呂に入るのも水を使います。

毎日お風呂を洗って水を使っています。

お風呂を洗って水を使っています。お風呂を洗って水を使っています。

お風呂を洗って水を使っています。お風呂を洗って水を使っています。

お風呂を洗って水を使っています。お風呂を洗って水を使っています。

お風呂を洗って水を使っています。お風呂を洗って水を使っています。

水は雨や雪が地上にふりそそいで山が川や海へとながれていくんだよ。その水女飲めるようにきれいにして水道かん水道ってみんなの家にとどくんたね。

水道のじゃくちをひねるといつでも水が出

てきて、ズンリだなあとあたしは思いました。
水はみんなのことやききえているんだと。
さしよのところは、そんなにお水が大変だと
は思いませんでしたし、水のことには知りませ
んでした。水は生活にはなくてはならないも
ので、お米を作ったりやさいを作ったり、こ
うじょうで物を作ったりする時もお水さんの
水が使われることを知りました。

あたしとおばあちゃんがお水さんの話を聞いてい
たら、おじいちゃんとおばあちゃんもびっくりしまし
た。

「このところ、ところどころで大雨がふって、川
の水があるお水さんのお水さん、田んぼや
はたけに水がふって、お水さんが作れなくなっ
たり、お水さんくすねがなくなったりして今まですん
でいたところにすめなくなったりしてしてい
る。お水さんなまし」

雨水は大切だけれど、天気によつてお水さん
のにお水さん、お水さんあるものになつたりするん
だ。あたしとお水さんがこのお水さん。うて生きてい

くには、いろいろあるが、ホムモンである。そして、水をもたないたりとないなど、自分からみる書を生かすの事がある。ていつかともすることが大切だと感じます。